

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090200286		
法人名	有限会社ケアサービス平和		
事業所名	グループホーム平和		
所在地	高崎市飯塚町1301-1		
自己評価作成日	平成29年5月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成30年6月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多方面から様々な助言を頂きながら質の高いサービスを提供し、地域のイベントに参加するなど地域の方々との触れ合いを大切にしている。又、ご家族との信頼関係を築き、そして共に利用者様を支えられる様、毎月の外出にご家族も参加して頂きコミュニケーションを図ったり、気軽に遊びに来て頂ける様、開放感、友好的な雰囲気作りを心掛け、利用者様の笑顔・ご家族や繋がりのある方々の笑顔・職員の笑顔の溢れるグループホームを目指しています。又、利用者様が持っている能力や体力を維持出来る様、毎日の体操やレクリエーションそして個々のレクリエーションを、その日の体調や意思を尊重しながら行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は理念の実践方法として、個別ケアの充実を掲げ、利用者が笑顔になってくれるのは個別ケアの結果であると、職員は認識しており、共有もしている。すでに取り掛かっている利用者もおり、食事支援等で個別化を図り、利用者が食事時にのびのびとしている様子や充足感も伝わってきたので、理念が具現化されつつあると伺えた。また、個別ケアの結果として、居室づくりにもその人らしさが表現されている。利用者が大事にしている人や物、習慣等、その人の人柄が伝わってくる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中にある「私達はあなたの笑顔が見たいです」という言葉のように、利用者様と職員との信頼関係を築ける様務め、一度でも多くの笑顔が見られる様な支援を心がけている。	入職者には9日間、管理者や職員が付いて支援方法等を理念に沿って教え、現任者にもサービス提供方法と結果を確認しながら、理念に沿っているか共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方々に毎月来所頂いたり、民生委員の方に慰問に来て頂き、利用者様と交流したり会話を楽しんで頂いている。又一人づつ買物やお茶をしに外出してお店の方達との交流をはかったり、散歩に出かけ近所の方と交流をはかり花を頂いたり、お礼をしたりしている。又町内の納涼祭等に参加し地域の方々と触れ合いを楽しんで頂いている。	歩行が困難な方でも車いすで散歩や買い物、食事に出かける等の外出支援をしている。近くの幼稚園児や傾聴ボランティア等の訪問や地域行事に利用者が参加しており、地域と交流を図っている。区長や安心センターから情報を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域密着型連絡協議会発足の認知症相談窓口に登録し随時相談を受け付けている。又、運営推進会議を通じ、安心センターの方や区長、民生委員の方々と施設内の話をしたり介護保険制度や介護等の情報提供をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催日の案内を毎回ご家族に通知し、参加を呼び掛けている。又、会議では、グループホームの行事など毎月の出来事を把握して頂いたり、広く地域の方々と交流をはかれる様な議題提案をさせて頂いている。会議では出席頂いた方々の意見・アドバイスなどを頂き、次回までに改善したり、変更したり取り入れさせて頂いている。	定期的に開催されている。区長から地域の情報が提供され、安心センターから交流会の案内が寄せられている。家族に出席依頼をしているが、なかなか日程や時間帯が合わないために出席者が少ない。	家族に今後も継続的に参加を促し、家族の参加しやすい日程も考慮してはいかがか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などの際、必ず市職員の方も出席頂き、アドバイスやご意見を伺っている。積極的にお話しさせて頂き、これまでに何度が改善、取り入れなどをさせて頂いている。	事業所の報告等で出向き連携を図っている。認知症デイサービス提供に関して、意見を伺い、情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時には身体拘束の研修を必ず行い、具体的にどの様な行為が拘束の対象となるのかを学習し、身体拘束“0”を目指し、それに努めている。	身体拘束に当てはまる行為等はしていない。管理者が入職時に指導し、スピーチロックに関しても職場会議で共有している。気付いたことは管理者が注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時に虐待の関する研修を必ず行っている。虐待発見時の通報義務についても、福祉に携わる者として常に心がけるなど、確認している。又、言葉の暴力が無い様、職場会議で時々言葉使い等の話をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に制度のある事を説明し、利用されるか確認をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より、十分な説明をさせて頂いている。入居後も随時話し合い等を行い、解約時も段階を経て行っている。又、改定の際も十分に説明させて頂き同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会等で、ご家族様などから意見・ご感想を伺い、記録し、改善・変更出来る点はすぐに反映している。又、ご家族とも気軽に色々な事を話せる様、友好的な雰囲気作りを心がけている。	本人からは身体状況に関してや、行きたい場所等を直接聞いている。頻りに面会に来られる家族からは本人からの話を教えてもらい、参考にさせてもらっている。電話や「平和新聞」で日常の状況を知らせて意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回の職場会議時、職員に自由に意見出来る時間を設けたり、日々の業務の中で一人ひとりの職員から意見や提案を聞く機会を設ける様に心がけている。改善すべき点は改善し、相互理解出切る様に努めている。	給料の支払い時に運営者や管理者は職員と話す機会があり、サービス提供方法や働き方等聞いている。出された意見の中で反映できることは反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員が提案や意見を言いや雰囲気気を心がけ、ホームに顔を出したり、毎月一回の外出にも参加してコミュニケーションをはかり、環境改善の提案も聞き入れて改善整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や会議、資格受験等のポスターを貼り、参加推進を働きかけている。新入職員に対してもマンツーマン体制で丁寧な指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型サービス連絡協議会へ加入し、管理者や職員が同業者と交流する場へ参加が出来る様働きかけている。又、他の施設との合同運動会を開催し職員同士の交流をはかったり、管理者同士連絡を取り意見を聞いたりしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談を頂いた後、必ずご本人と面接を実施し、不安な事や要望等聞く様に努めている。その際なるべくご自宅へ伺い、ご本人の生活環境なども見せて頂き、理解を深められる様努めている。入居後も個別で外出をするなど話しやすい環境を作りコミュニケーションをはかっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労やサービス利用状況等、経緯について、ゆっくりお話しを伺いながら関係を築いていける様にしている。来所時にも色々な話をさせて頂いたり、ご家族と外出する機会を設けたりし、信頼関係が持てる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思いや状況などを確認し、何がこの方にとって必要であるかを見極め、可能な限り柔軟な対応ができる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、長く生きてこられた人生の先輩であるという事を常に心に留め、昔の風習や料理の味付けなど教えて頂いたり、手伝いや片付けをして頂いたり、又、雑巾や利用者の洋服のほつれを縫って頂いたり、洗濯物干しやたたむなど出来る事はやって頂き、共に協力しながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にいつでも来て頂ける体制にしてあり、その際にはご家族の思いに寄り添い、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、又、家族と毎日電話出来る様支援したり、行事参加を毎回呼びかけ、ご家族と職員、利用者様と関係を深められる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	門戸を広げ、ご家族や友人がいつでも来て頂ける様に、開放的な雰囲気、友好的な雰囲気づくりを心がけ、来て頂いた方々と記念写真を撮ったりしている。又、外出・外泊は自由でご家族と一緒に外出する機会を設け、買物に行ったり馴染みの方々と会ったりしている。	家族との外出や外泊を継続されている利用者やカラオケ・習字を続けている人もいる。夜自室でのテレビ鑑賞や体操、散歩等馴染みのことを介護計画に盛り込みながら継続支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席を配慮したり、全員集まる時間には共通の話題を提供したり、歌を歌ったりしている。なかなかお話し出来ない方に寄り添い話しかけながら、穏やかに生活できる様努めている。又、利用者全員で出来るレクリエーションや工作などを行い、協力をして行う事で達成感が得られる様工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方とも、遊びに来て頂ける様声掛けしたり、思い出の写真を差し上げたり、通夜や葬儀にも参加させて頂いている。又、電話をし状況把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、話しやすい雰囲気作りに努めたり、声掛けをしたりして、意向の把握に努めている。又、職員と一対一で散歩に出かけ話を引き出したりしている。その他ご家族からも話を伺ったり、情報を頂いている。	利用者と直接会話をしたり、日常の様子から意向を把握している。家族からは、面会時や月1回の利用料支払い時に希望等確認し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前通っていた他の施設の方に話を伺いに行ったり、ご本人から伺ったり、ご家族・ご友人などの面会の際にも、少しづつ伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活スペースに合わせ、その中で出来る事に注目し、その方の全体の把握に努めている。又、利用者の訴えには耳を傾け、心身状態が把握出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のモニタリングでケアマネと職員が話し合い、ご本人がより良く生活して頂ける様、ご本人・ご家族のご要望、医師等の意見を含め、普段の生活記録や様子など総合的に反映し、介護計画を作成している。	初回利用時にアセスメントを行い、介護計画を作成し、月1回開催の職場会議時にモニタリングを実施している。状態変化や認定更新時に家族参加のサービス担当者会議を開催し、介護計画の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録、連絡ノートで個々の状態変化等記録し送りなどで情報を共有している。職場会議やモニタリング時、職員同士で話し合い、介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の事情や環境、利用者様の心身の状態等の変化など、その時々で違う為、ご家族と良く話し合ったり、モニタリング時にその時々々の状況を話し合い、柔軟で多様化したサービスに対応出来る様取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や近隣施設への働きかけや、ボランティアの方達の協力も得て、町内の催し物に参加させて頂いたりして利用者様に楽しい時間を過ごして頂いている。又、毎月利用者様と図書館へ行き皆で読める本やビデオを借りている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望を大切に、入居時に主治医の選択をして頂いている。一人ひとりの受信記録を作成し、全職員が情報を共有している。又、主治医に月2回往診に来て頂き、利用者様・職員ともコミュニケーションをはかり関係を築いたり、緊急時、急変時にも対応出来る様24時間体制を取って頂いている。	入居時にかかりつけ医の継続か協力医に変更できることを説明している。協力医による定期的な訪問診療と、訪問歯科の年に1回の定期検診及び、必要時の診療支援がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の体調把握に努め記録し、職員同士が情報を共有して小さな変化にも対応出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、管理者、ケアマネが情報提供を行い、ご家族も含め三者一体となり、入院ダメージの軽減に努めている。又、入院中も医師や相談員と話をする機会を持ち、退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時、ご家族と重度化や終末期に向け事業所で出来る範囲の事を説明させて頂き、方針の相談を行い「意思確認書」を作成して頂いている。又、その時は担当医師と出来る限り密に相談し、ご本人の望まれる終末期のあり方の再確認をご家族と行っている。	入居時に意見確認書を説明し、同意を得ている。本人からも希望が出れば家族に伝え、状況変化時には思いの再確認を行い、終末期に関する研修等は職場会議で確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、研修を行っている。救急車要請の具体的レベルを提示し、緊急時落ち着いて対応出来る様に日常的に意識している。又、消防署の協力を得て救急時の対応の講義や心臓マッサージ訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時マニュアル、災害時マニュアルを作成し、常に非常時をシミュレーションしながら、日常業務を行っている。又、区長や民生委員の方との連携も依頼し、関係を築いている。又、月に一度避難訓練を実施し、その場で避難方法や不備な点等を話し合っている。	30年5月、消防署立会い、総合訓練を区長や民生委員が参加し実施。総評を参考に月に1度昼夜想定火災・地震対応の自主訓練を実施。災害時の地域避難所を確認し、備蓄として食料品・水の用意がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった対応を心がけている。人生の先輩である事を忘れず尊敬の気持ちを持ち、言葉かけ、呼び方など配慮している。	理念にある本人の笑顔を引き出すことは各人の尊厳を守ることに繋がっていることを、職員は理解し、個別支援とレクリエーション時の集団時でも意思を確認している。利用者同士の相性を考慮し、気持ちよく過ごせる日常に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員と利用者様が気軽に話せる雰囲気作りに努め、希望や要望が言いやすい様、一人ひとりに合った声かけを心がけている。又、返事の遅い方は返答があるまで待ち、出来ない方にも表情を読み取るなど、ご本人の自己決定をゆっくり待つ様に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の一日の流れはあるが、その方のペースが最優先で、無理強いせず、その方の気持ちに沿った支援を心がけている。夕方に自由な時間を設け、ご自分のやりたい事、カラオケや編物、読書、塗り絵等をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度散髪をしたり、化粧品等購入し入浴後につけて頂いたりしている。外出する際は、個々に好みの服を着て頂き、お化粧品等をして楽しい気分です掛けられる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物をリクエストして頂きメニューに反映している。食事作り、テーブル拭き、食器片付け等出来る方には手伝って頂いている。又、利用者の方と手巻き寿司やおやつと一緒に作ったりしている。又、お昼の時間は職員も一緒にお茶をしながら会話を楽しんだり、おやつの中には好きな飲み物を選択して頂き提供している。終1回ですが、朝、昼、夕食をスタッフが一緒に食べている。	職員が献立を考え、食材を地域のスーパーで買い、担当制で作り、検食も兼ねている。外食や日本の行事食を提供し、個別で刻み食等状況に合わせて提供している。3時の飲料は好きな物を選択してもらっている。	検食者は料理を作った人ではない職員にしてもらってほしい。また、食事時に流れている音楽や車いすのままでの食事について検討してはいいかがか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の先生と相談し、利用者様ごとに栄養面を考慮し食事量を調整したりしている。(食事、水分摂取量を毎日記録している) 入浴後にはアクエリアスを必ず飲んで頂き脱水予防に努め、又、水分をあまり摂らない方には、先生からお話し頂いたり、色々な飲み物を提供し水分補給をして頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実施し夜間は義歯を預かり消毒している。ご自分で磨いて頂いた後、職員も確認する様に心がけている。自分で磨けない方は職員が手伝いながら磨いている。定期的な歯科医の往診でご指導頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄や飲水記録を付け、パターンを把握する様心がけている。把握により声掛けのタイミングをつかみ、出来るだけ失敗を無くす為、時間をみてトイレ誘導し排泄して頂ける様支援している。	トイレでの排泄を基本とし、時間での誘導や、自立の方には居室で確認させてもらい、自尊心に配慮している。居室にポータブルトイレを置き利用している人もいる。ヨーグルトや牛乳を提供し自然な排便に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のメニューに配慮し、牛乳やヨーグルト、ひじき、根菜類など食物繊維を多く摂る様にしている。毎日午前、午後と体を動かす支援をしたり、散歩に行ったりし自然排泄出来る様取り組んでいる。又、便秘気味の方は主治医と相談し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯など工夫したりしている。入浴を拒否される方に対しては、声掛けを工夫したり時間を変えたり、音楽をかける等して入浴して頂いている。又、失禁時はシャワー浴をして頂いている。又、出来る範囲で一日一人ではあるが希望入浴を実施している。	月曜日から土曜日まで毎日入浴できる体制があり、平均週に2～3回入浴している。人により連続して入っている実績もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や活動サイクルに合わせて、昼寝をして頂いたりソファで休んで頂いている。又、なかなか寝付けない方には職員と一緒に付き添い、話をしたり、テレビを見たり、ご本人に合わせて休息して頂ける様心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご自分で口に入れられる方には手渡し服用確認している。その方に合った服用方法が心がけている。又、服薬情報を職員全員がすぐ確認出来る様掲示したり、処方薬一覧を置いてあり把握出来る様工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った楽しみ(塗り絵や編物、書道等)を見つけたり、好きな事、得意な事を把握し張り合いや喜びのある時間を過ごして頂ける様心がけ、又、作品を飾り皆さんにも見て頂ける様にしている。気分転換で外にコーヒーを飲みに行ったり、毎月の外出先や外食先を利用者様と検討し楽しみが持てる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩へ誘い気分転換して頂いている。又、何処へ行きたいか、どんな事がしたいかなど希望を聞き、買物や外食、季節毎の花見などに行っている。又、毎月一回の全員での外出には、ご家族の参加を呼びか一緒に出掛けられる様支援したり、いつでもご家族と外出・外泊もして頂いている。	日常的には個別の買い物や散歩に出かけた後、家族との外出や外泊の支援もしている。月に1度家族も参加できる全員での外出行事では、外食や遠出にもチャレンジしてお楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお金を預かりご本人の希望で買物が出来る様支援している。職員と一緒に買物に行った時や外出行事でお土産を買う時など、職員が見守りながら支払いをして頂いている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望される方には、かけてお話しして頂いている。又、携帯電話で時間帯を決めご家族とゆっくりお話し出来る様にしている。一緒に葉書を買に行き手紙等やり取りが出来る様に支援したり、年賀状を家族や友人に出し返事を頂いている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール外のデッキに洗濯物を干したり、キッチンも対面式で料理の匂いなど生活観を感じて頂いている。テーブルには庭で摘んできた花を飾ったり、食事時にはBGMをかけている。又、鯉のぼりや七夕飾りなど飾り季節感を出したり、庭には季節の花が植えてあり、家庭菜園を毎年行い収穫を楽しんでいる。	不快な臭いも無く、大人の設えの共用空間である。座る人が決まっている専用の椅子もある。日頃の作品やカレンダー、外の景色が良く見え四季が良く分かる造りである。気候の良い時にはデッキでお茶を楽しむこともある。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にスペースを分けたり、イスやソファを置いて思い思いに座って頂いている。食事テーブルも仲の良い方同士を隣にするなど配慮している。又、気の合った仲間でお部屋に行き女子会をしたり、カラオケが楽しめる様支援している。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた馴染みの物やテレビを持って来て頂ける様ご家族にお願いをしたり、カレンダーや家族写真を貼ったり、好きな花を飾ったり、仏壇を置いて頂いている。タンスの整理なども一緒に行っている。	仏壇やテレビ、ラジオ、カレンダー、化粧品、家族が撮影した写真が掲示されている。外出する時には自分で服を選びやすいように時期の服が整理させている。居室で一人になり寛ぐ支援もしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	外出時、座って靴を履ける様に玄関にイスを置いたり、ご自分の部屋が分かる様に大きな文字の名前を掲示している。又、料理が出来る方はスタッフと一緒に食事作りをしたり、他の方にも味見やお皿拭きや縫物など出来る事をお願いしている。	